

# 道岳連だより

広報 NO.80  
平成29年5月1日  
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>

第56回

## 全日本登山大会

平成29年7月6日(木)～8日(土)



北海道山岳連盟が主管する、第56回全日本登山大会北海道大会が、7月6日(木)～8日(土)までの3日間に亘り後志管内羊蹄山とニセコ山系で開催される。

北海道開催は、昭和33年3月の第2回(十勝岳連峰)、昭和37年2月の第6回(大雪、ニペソツ、ウペペサンケ)、昭和42年8月の第11回(知床)、昭和61年9月の第25回(ニセコ、羊蹄山)、平成10年7月の第37回(大雪山系)、平成20年7月の第47回(十勝岳連峰、旭岳、芦別岳)と今回をあわせて7回目となる。

道岳連では、昨年からの準備に取りかかり、7月の交流登山会をプレ大会として実施したのをはじめとし、常任理事を中心とした実行委員会を6回開催。日高登山研修所開き二日目には大会組織委員会を構成するメンバー及び各登山コースのリーダーによる「全体準備委員会」を招集して大会成功に向けての準備をすすめている。

北海道大会の募集人員は270名、申込み期間(平成29年4月10日～5月22日)、大会日程は6日⇒13:00-15:00 参加者受付、15:00-17:00 開会式・記念講演 会場はいずれも宿舎の「定山溪ビューホテル」7日⇒登山(羊蹄山・ニセコ山系・尻別岳) 18:30-20:30 閉会式・交流会 8日⇒朝食後自由解散、オプションツアー出発 となっている。

### 《 登山コース及びサポート担当団体 》

	コース名	コース	宿舎出発	担当団体
A	アンヌプリ	五色温泉からニセコアンヌプリ往復	8:00	札幌岳連
B	イワオ・ニト	五色温泉→イワオヌプリ→ニトヌプリ→峠	8:00	苫岳連・苫小牧
C	沼巡り	大谷地駐車場→大沼→大谷地駐車場→神仙沼→神仙沼駐車場	8:00	岩見沢岳連
D	チセヌプリ	峠→チセヌプリ→湯本温泉	8:00	小樽岳連・恵庭
E	羊蹄山 ①	比羅夫口→羊蹄山→京極口	4:30	十勝岳連
F	羊蹄山 ②	真狩口→羊蹄山→真狩口	4:30	室蘭岳連
G	羊蹄山 ③	京極口→羊蹄山→京極口	4:30	札幌岳連
H	尻別岳	留寿都口から尻別岳往復	8:00	釧路岳連

記念講演⇒日下 哉氏 交流会アトラクション⇒札幌アイヌ協会の民族舞踊 参加者記念品⇒ムックリ・鳥笛グッズ・大会刻印メダル・協賛企業飲料等 道岳連オプション登山企画⇒狩場山

# 安全登山シンポジウム

平成 29 年 6 月 20 日(火) 札幌エルプラザ 3 階ホール

道内における山岳遭難の発生は、平成 27 年から遭難件数が増加していますが、これはスキー場のコース外滑走による積雪期の遭難件数の増加によります。これらを除くと、例年圧倒的に夏山シーズンでの遭難件数が多く、昨年は脱水関連の遭難が目立ちました。本格的な夏山シーズンを前に、一般登山者に対して正しい知識と有用な情報を提供し、遭難防止に対する意識の向上と啓発を図ることを目的とします。

開催日時は、平成 29 年 6 月 20 日(火)午後 6 時から 9 時、札幌エルプラザ 3 階ホールで、北海道山岳遭難防止対策協議会と北海道山岳連盟が主催します。

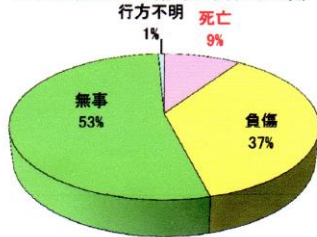
シンポジウムの内容は、1. 北海道における山岳遭難の実態(北海道警察山岳遭難救助隊対策官 西村和隆氏) 2. 夏山遭難の医療対応「脱水(心臓発作)・低体温症」(国際山岳医 大城和恵氏) 3. 日本 200 名山踏破から見た北海道の山の魅力(アドベンチャーレーサー 田中陽希氏) 参加料は無料で、定員は 320 名を予定。

## 山岳遭難発生状況(平成28年)

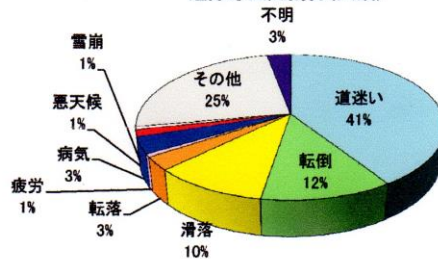
平成28年12月末現在

分類	発生件数	遭難者数	遭難者の死傷等別(人数)				遭難原因別(人数)										
			死亡	負傷	無事	行方不明	道迷い	転倒	滑落	転落	疲労	病気	悪天候	雷崩	その他	不明	合計
山岳遭難 (山菜採り遭難を除く)	119	137	13	50	73	1	56	16	14	4	1	5	2	1	34	4	137
うちバックカントリー スキー遭難	47	57	5	15	37	0	32	6		2		1	1	1	14		57
うちスキー	39	49	2	13	34	0	29	4		2		1			13		49

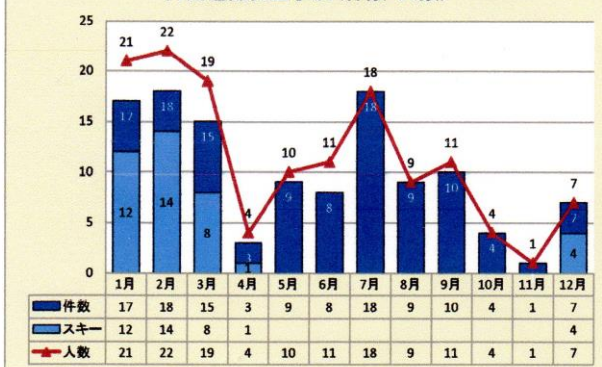
山岳遭難者の死傷等別割合(人数)



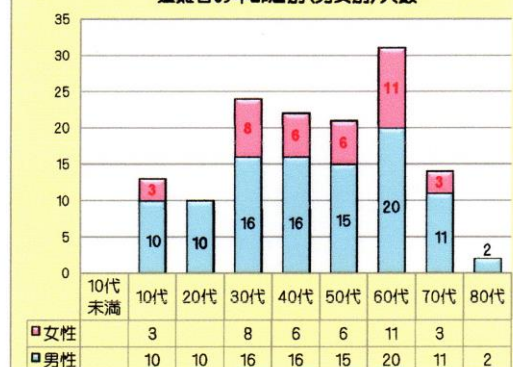
遭難原因別割合(人数)



月別遭難発生状況(件数・人数)



遭難者の年齢層別(男女別)人数



この表は、北海道山岳連盟ホームページ、北海道警察安全登山情報 年別山岳遭難発生状況(平成28年)から転載しました。

# 行事・各委員会事業報告

## 平成28年度 第3回理事会 3/12 札幌エルプラザ

平成28年度北海道山岳連盟第3回理事会は、札幌エルプラザ大研修室で47名(委任状25)の理事が出席して開催された。議件として第1号議案 日山協代表者会議報告 第2号議案 平成28年度事業報告 第3号議案 平成28年度会計決算報告 第4号議案 平成29年度事業計画(案) 第5号議案 平成29年度会計予算(案) 第6号議案 各種議題 第7号議案 備品台帳 第8号議案 その他 が提案された。

会議に先立ち1月に逝去された道岳連顧問で元会長の阿地政美さんに黙祷を捧げた。

小野会長は冒頭のあいさつで、今年度はSCが東京五輪種目になったこと、バックカントリーブームで山岳遭難事故が増加、今後も事故減少のための努力をさらに続けることなどを述べる。

議案審議では第1号議案は明田理事長が日山協代表者会議の内容を詳細に報告、第2号議案～第3号議案は報告を承認。第4号～第6号議案の事業計画・



予算は、行事・事業日程をHPに掲載、ほぼ前年並みの事業を組むことを各担当者が説明し承認された。(上記議案の内容詳細は、理事会議案書または道岳連HP議事録を参照ください)

第7号議案では、7月6日～8日に開催する「全日本登山大会 羊蹄山・ニセコ大会」の開催要項を全国の岳連に配布・説明済みで、4月10日から参加申込受付を開始する。全道交流登山会は富良野山岳会が主管し富良野西岳3コースで8月26-27日開催。安全登山シンポジウムは6月20日札幌エルプラザ、ゲストスピーカーは田中陽希、他に国際山岳医の大城和恵Dr、道警山岳救助隊を予定。北海道アウトドアフェスのプレ競技会を春に実施予定。道岳連リーフレット今年も作成、会員が一般登山愛好者にPRを。道内山岳9団体交流会の今年度幹事は道岳連。渡島西部山岳連盟(4団体で構成)が道岳連を脱退。日山協参与に太田・土屋の元副会長、道岳連参与に神山前理事長を推薦。いずれも承認・了承された。

第8号議案では、日山協北海道ブロックの理事候補に引続き小野会長を推薦することに決定。各専門委員会決算報告書の様式統一及び加盟団体が取り組む「山の日」事業への予算付けについての要請があり、それぞれ執行部から説明・答弁がなされ、14:30理事会を終了した。

## 日高登山研修所開き 4/15-16 日高登山研修所・狩勝山

平成29年度の安全登山研修&日高登山研修所開きは、4月15日(土)～16日(日)の二日間に亘り個人会員を含め69名が参加して開催された。一日目は、14時の受け付けに先立ち、指導員総会など各専門委員会の会議を開催。14:45からは恒例の研修所内外の大掃除を済ませ、旭川山岳会石井昭彦講師、北海岳友会益田敏彦講師より、それぞれの山岳会の活動状況や先進的な取組の発表があった。懇親会の食事は、こぶし山岳会有志、美唄山岳会、帯広山岳会が担当し、春～夏山シーズンに向けて懇親を深めた。



二日目の安全登山講習は、狩勝山へのスキー登山(講師 相馬範昭、山田恭久、若林誠)、スノーシュー登山(講師 渡邊良久、藤木たか子)、スポーツクライミング(講師 為野宜己)、緊急搬送(講師 滝澤大徳)で行われた。



開会式



緊急搬送



スポーツクライミング

同じく二日目に、7月に迫った全日本登山大会の全体準備会議が8:30-11:00まで開催され、実行委員会構成メンバー、登山コースのチーフ・サブリーダー担当者が準備状況の確認と今後の作業、開催期間中の役割分担など細部に亘る詰めの協議を行った。



全日大会全体準備会議

### 「狩勝山」スキー・スノーシュー登山の報告



「狩勝山 984.9m」を目指しての春山登山研修は、山スキー13名、スノーシュー10名が参加しました。8時に日高登山研修所を出発し、昨年の大雨被害の跡が残る南富良野町落合を經由し、狩勝峠手前4kmの積雪観測所に車を置いて、9時40分標高508mから登山開始。樹林帯中は穏やかな風のなか高度を稼ぎ、斜度が急なところでは、相馬リーダーが「弱層テスト」を行って安全確認。およそ2時間、11時25分には山頂に登頂。稜線では風が吹き、ポツポツと雨粒が落ちてきたためすぐに下山を開始し、春山のザラザラ斜面にみなさん安全にスキー滑走とスノーシュー下山してきました。12時45分に全員の下山を確認して、楽しかった山行をみなさんと振り返って解散となりました。

(報告 富良野山岳会 高見)

## 山岳スキー指導者研修会 12/17-18 ニセコグランヒラフスキー場ほか

山岳スキー運営委員会が主催する‘16/11～‘17 冬山シーズン山岳スキー指導者研修会兼初・中級スキーヤー研修会は雪空の下、国際色一杯のニセコグランヒラフスキー場に道内各地より25名の

方々が参加し開催しました。初日は3班に分かれ基礎スキーを十二分に滑りました。その後、雪秩父温泉地区のペンション群の一角にある「まっさんヒュッテ」で机上講習を実施しました。懇親会は明日の天気祭りを兼ねて盛大に行われ親睦を深めました。

二日目は宿泊先から車で数分の旧チセヌプリスキー場に会場を移して実践の山岳スキーでシール登高、キックターンなど基礎技術を学びました。因みに旧チセヌプリスキー場は欧米人スタッフ数名でキャットスキーを昨日からやっており、雪上車の邪魔にならない様に登山して欲しいとスタッフに注意勧告がありました。



雪が少なくブッシュ状態のルートを巧みなシール登高技術を駆使しました。15m級の強風でリフト終点から下がった鞍部で風を凌ぎ、雪山セルフレスキューを各班ごとで実施しました。昼食は緊急避難訓練も兼ねて各班でインディアンツェルトを設営、昼食を摂りました。ここから上部の強風を避けて下山としました。班ごとに深雪滑走の実践訓練、皆さん最高のパフォーマンスで滑り、全員無事P場に集合し終了しました。

(報告 指導委員長 藤木 晴夫)

## 公認山岳指導員(Alp インクラミング)養成講習会・検定会 1/21-22 国立日高青少年自然の家及びその周辺

昨年7月から実施していた「山岳指導員養成講習会と検定会」は、国立日高青少年自然の家とその周辺を会場に平成29年(2017)1月21日(土)~22日(日)の1泊2日の日程で、4回目となる今回をもって終了しました。

山岳指導員は、地域において子どもや登山経験の少ない人に安全登山について指導し、事業計画を立て運営することができるよう、決められたカリキュラムを受講し、筆記試験や実技試験に合格すると、日本体育協会から公認される資格制度です。

今回の積雪期バージョンには、指導員資格の取得を目指す17人が検定会に臨みました。日本山岳協会の公認山岳指導員検定基準に基づき、積雪期登山における指導法について、受験者は検定員への説明と実技を披露しました。

2日目の天候が悪化することが予想されたため、2日目に実施する試験項目と初日の試験項目を入れ替えて実施しました。

日高国際スキー場の3本のリフトを乗り継ぎ、第4リフト下部斜面付近に移動後、受験者の緊張した面持ちの中、アイゼンなしの歩行、アイゼンを着用しての歩行、滑落停止などの課題に対し受験者一人ひとりに検定員が項目ごとに点数付けを行いました。

夕方からの受験者は、受験の緊張と冷えて疲れた体に鞭打って、積雪期バージョンの筆記試験を2時間かけて答案用紙に向かいました。





筆記試験終了後は、懇親会。冷えた体に「アルコール」がよく吸収します。アルコールの量が増えるごとに気持ちも大きくなり、明日の試験も大丈夫という気分になってきます。しかし、油断は禁物です。受験者の近況や受験の思いを一人2分以内の発表を終えて、翌日の試験に備え就寝しました。

2日目は午前9時に自然の家周辺のA営火場(えいかじょう)の広場を利用して3班別け、ピッケル(アイスアックス)の各箇所名称やその用法と実際、アイゼン(クランポン)の各箇所名称や用法と実際の説明と検定員の質問の回答に続き、アバランチトランシーバー(ビーコン)による搜索を4分以内と決め実施したほか、冬山登山時の危急時のシェルターづくりを実際に行いました。終了後の午後2時にはそれぞれの検定員講評のあと、解散しました。

受験者の協力のもと、ケガなく体調不良者なく安全に検定会を終了できました。受験者の皆さんありがとうございました。お疲れ様でした。また、検定会を担当していただいた藤木委員長をはじめ、検定員の皆さん、ありがとうございました。

なお、2日間にわたって会場内外で受験者と検定員を温かく見守って下さいました小野倫夫・道岳連会長に感謝申し上げます。  
(報告 指導委員会 澤田 時人)



## 氷壁技術講習会 1/21-22 層雲峡銀河の滝

本年度の氷雪技術講習会が2017年1月21-22日の日程で層雲峡銀河の滝で行われ、講師2名と参加者7名の合計9名が参加しました。

21日は天気も穏やかで予定通りに集合。12時ころより講習開始。氷壁初心者や経験者もあり、アックスやアイゼンの打ち込み方など基本的な技術のおさらいをした後、トップロープ2本を張り登りの練習。その後、支点の取り方やアバラコフの作り方などを行い15時頃終了。気温は低くいい氷で、人も少なく快適に講習ができました。

宿に戻り夕食前、基本的なアイスクライミングの机上講習を行い、夕食と懇親会。11月にネパールの未踏峰を目指した江崎氏のスライドショーを看に盛上りました。

翌日は経験者と初心者の2組に分かれ、滝上部までとフィックスロープの登下降練習を行いました。上部登攀組は、下部はノーロープで登り、上部2ピッチを登攀し落ち口に立ちました。懸垂下



降も無事終わり、下部トレーニング組と12時に合流。

下部トレーニング組は氷壁でのフィックスロープ支点の通過の登  
下降の手順をしっかりと学びました。その後全員で駐車場に戻り解散。

今年は初心者と経験者がいい割合で構成されたので、登攀と下部  
トレーニングができ、参加者の皆さんには満足がいったかと思いま  
す。ただ、実際のヒマラヤ登山報告を聞ける方が少なかったのが残  
念です。また、指導員をお持ちの方にもお手伝いを頂き有難うござ  
いました。  
(報告 海外委員長 工藤 寛)



## 山岳スキー(冰雪)技術研修会 2/4-5 稚77°リ・ニ77°リ南峰

平成29年2月4日(土)～5日(日)チセヌプリ及びニトヌプリ(宿舎 雪秩父「まっさんヒュッテ」)  
において山岳スキー技術研修会が行われ、研修会にはスタッフ6名を含む18名が参加しました。

2月4日(土)一日目、旧チセヌプリスキー場駐車場に集まり受付を済ませ開会式、道岳連副会長  
佐藤氏の挨拶及びオリエンテーションを行い、準備体操とビーコンのチェックを行いチセヌプリへ  
向かいました。

チセヌプリ中腹までスキーで登り、周辺の硬雪斜面に  
おいて雪崩発生の予測のため弱層(ハンドテスト)を行い  
安全なことを確認、2班に分かれアイゼン・ピッケルの  
研修を行いました。アイゼンでの歩き方、ピッケルの扱  
い方など実践をしながらの研修は真剣そのものでした。  
予定では、チセヌプリ山頂まで登る予定でしたが、時間  
も押し迫り中腹の研修場所から下山することになり、帰  
りはパウダーの中を滑降下山しました。



ヒュッテにおいては、石川講師によるピッケル  
ワーク、アイゼン無し、使用した場合の歩行  
技術、滝澤講師による雪崩発生時埋没者救出に  
ついての講義を受けました。

2月5日(日)二日目、昨日の研修で習得した  
ことを実践するため、ニトヌプリ南峰に向かう  
ことになりました。班ごとに準備体操、ビー  
コンチェック、途中、安全な急斜面において弱層  
テストをしました。結果、弱層はあるものの今  
日は雪崩が起きる可能性が低いので登ること  
になりました。



急斜面の登りでは抜き上げキックターンなどを学び、910m付近まで登ったところでスキーをデポ。  
アイゼンに履き替え、ピッケルとアイゼンを使った歩行を実践しました。登りでの斜登・直登、下  
りでの直降下、斜降下、その場でのピッケルの使い方、カッティング、耐風姿勢、滑落停止など実  
践し、南峰まで登りデポ地点まで下りました。

スキーに履き替え、重たいパウダーの急斜面を滑降、参加者は皆苦勞していたようですが、参加  
者全員安全に下山しました。今回の研修会で学んだ技術を自分のものとして、広く会員に広めてい  
くよう期待します。  
(報告 指導委員会常任指導委員 渡邊 良久)



## 冬山講習会 Part1 2/4-5 羊蹄山・京極山荘

今回 普及委員会冬山講習会 1 回目を札幌山の会京極山荘をベースに行いました。個人会員及び一般参加者 20 名にスタッフ 9 名を含め総勢 29 名、結果 2 日間最高の天気恵まれた。約 30 名で山荘は満員。

【1 日目】開講式、道岳連小野会長挨拶後、橋本一郎さんのアバランチトランシーバー操作他を資料に基づき講習。その後全員スノーシューを装着し標高 550m 付近まで行き、弱層テスト及び判定方法、雪洞構築方法や構築後の雪洞内での生活について講習。三種の神器を装備するのはもちろんの事、日帰り装備に加えるものとして、底面よりの冷氣遮断マット、ストーブなどを加える事、雪洞構築後スコップは雪洞内に入れる事などを伝える。参加者もそれぞれに雪洞構築を実際に体験した。また、横山委員長持参の特殊器具により、雪崩埋没体験や埋没者のプロービング感触体験など貴重な経験をした。天気も良く笑いも出る中、皆さんそれぞれ真剣に取り組んでいた。

講習後は楽しみの夕食。京極町内のお肉屋さんでの焼肉。多少のお酒、美味しいお肉、皆さん大満足での夕食となった。山荘へ戻り懇親会后 21:00 には就寝。

【2 日目】満員の山荘、スペースを譲り合いながらの就寝、お酒も入っているので、夜中はイビキ、寝言の大合唱だったとの報告も。

朝 5:30 頃にはぼつぼつ起きはじめる。6:00 には全員起床。横山泰子さんお手製の豚汁（事前準備、下ごしらえご苦労様でした）が既に出来上がっており、参加者みんなで配膳朝食準備。山荘窓越しに羊蹄山を眺めながらの朝食となった。

7:30 スキー班、スノーシュー班に分かれ京極コースを出発、天気最高、雪質最高、それぞれラッセルを交代しながら進む。標高上がるにつれ眺める景色にみんな感激、風もない。1100m 付近まで進み各自行動食をとる。休んでいる横を外国人の半そでスキーヤーが登って行く。風もないので頂上までか。我々は大休止後下山開始、他のスキーヤーやボーダーより先にパウダー斜面を滑り降りる。スキーヤー、ボーダーの皆さんごめんなさい。

無事各班とも山荘に戻り、残りの豚汁をいただき 13:00 閉講式解散となった。横山委員長はじめスタッフの皆さん、事前準備含めご苦労様でした。また、山荘駐車スペース確保のため除雪にご協力いただいた斉藤さんありがとうございました。（報告 普及委員会副委員長 東海林 春樹）



ショベルコンプレッションテスト



京極登山口で

### スタッフ

小野道岳連会長	CL 横山 温		
スキー班	L 細木 輝雄	SL 加藤 陽子	横山 泰子
スノーシュー班	L 東海林春樹	SL 橋本 一郎	松下 陽子



## 受講者感想

### (恵庭山岳会 S・Yさん)

本当は山スキーの部で参加したかったのですが、傾斜のきつい羊蹄としてスキー初心者の私は登ることはできても下りは無理と自覚し、スノーシューで参加しました。

一日目は“三種の神器”の使い方を教わります。まずはビーコンが全員に手渡され、操作の基本を教わりました。横文字と専門用語が多くチンプンカンプン…。入山時に発信モードにすることだけを頭に叩き込みました。

次に山に入って雪洞を作りました。小さいころのかまくら作りを思いだし夢中になりました。中に入ってみると意外に暖かく、静かで雪に包みこまれる感じが…。実際は緊急用なので、速やかに1時間以内にせよ！との事。プローブは実際に人を埋めて一人一人プローブを握りしめ突き刺してみました。人に当たると微妙に軟らかい感触でドキッとしました。また、ツェルトもヒモありとヒモなしバージョンで張ってみて中に入り、一枚の薄いシートがとても心強い事を実感しました。

さて講習が終わり夕食は焼肉屋で肉をたらふく食べ、かつ飲みとても満足！！手作り感満載の札幌山の会京極山荘は、居住性も快適で二次会のお酒もどンドンすすみます。

二日目、羊蹄山がくっきりと見え、雲ひとつない絶好の登山日和です。心づくしの豚汁とおにぎりでエネルギーを満タンにしていざ羊蹄へ…。歩き始めて傾斜が上がってくるとさすがにキツイ、すぐに息が上がります。しかし、景色がすごい。

夏だと樹林帯に入れば枝葉がじゃまをして景色など見えませんが、振り返るたびに小さくなってゆく京極市街と反対に遠くに余市岳・無意根山・手稲山・定天・札幌岳・空沼岳とずんずん展望が広がってゆくのです。脳裏から消えることのない様な映像です。

若い人や外人さんがガンガン追い抜いてゆきますが、明るく挨拶を交わしながら結局スノーシュー班は1100m、スキー班は1200m付近まで登り、後は爽快に下るのみ。いやはや、タメにもなり尚且つ楽しいというあつという間の二日間でした。スタッフの皆様ありがとうございました。また是非参加したいと思います。



雪崩埋没体験

### (札幌山の会 須田 康仁)

冬山の技術の基礎について学びたいと思い、昨年に引き続き参加させていただきました。1日目はスノーシューを使い1時間ほど登り、雪洞の作り方、ビーコンの操作方法、雪崩発生時の救出方法について学びました。自分自身スノーシューは初めての体験であり、雪上をスムーズに移動できる点や、外れにくく使いやすいことなど勉強になりました。雪洞の作り方では、実際に自分で作業することでどのくらいの時間でどれ程の物が作れるかという事がわかり大変参考になりました。

2日目は山スキーで900m地点まで登り、滑降を試みましたが自分自身日頃の練習不足もあり、講師、メンバーの方に迷惑をかけてしまい大変申し訳なく思っております。しかし、期間中快晴の天気恵まれ、スタッフの皆様の親切な指導もあり、山の素晴らしさを改めて実感することができました。今後はスキーの技術を高め、再び参加することができれば幸いです。冬山登山を安全に行うための技術指導、スノーシュー、山スキーの楽しさを教えて頂いた北海道山岳連盟の皆様へ深く感謝いたしますとともに、今後も同様の講習会を継続して下さいますよう希望します。

二日間ありがとうございました。

## 冬山講習会 Part2 3/4-5 伊オヌプリ・チセヌプリ・五色温泉

前回の羊蹄山に続き、2回目の普及委員会冬山講習会(応用編)伊オヌプリとチセヌプリ登山を、一般5名、山岳会3名、個人会員15名とスタッフ8名の総勢31名で、ニセコの五色温泉旅館別館に宿泊して二日間の日程で行いました。

今回は、送迎バスを使用せず、参加者各自の車で五色温泉駐車場に集合し、午前10時より開講式で北海道山岳連盟佐藤副会長より挨拶後、スキー班とスノーシュー班に分かれて伊オヌプリを目指した。

駐車場より冬期間閉鎖された道道を進み、南東斜面を950m付近まで登ると風が強くて視界が悪くなり、安全も考慮し頂上まで登ることは無理だと判断し、午後1時頃に全員が下山した。早々に五色温泉旅館別館に入り、松下陽子さんの資料による低体温症の講話と、佐藤 眞さんのアバランチトランシーバーの使用方法についての講習を受けた後、全員外に出て捜索訓練を行う。

最初にダミーの人形を雪崩埋没者に想定し、二人ペアになり実際にアバランチトランシーバーを使用して埋没者を探し当てる事や、迅速にスコップで掘り出す方法等、より実践に近い体験をする事ができたので大変参考になりました。外はちょっと寒かったけれど、佐藤 眞さんの熱の入った講習会には全員脱帽、また是非機会があったらお願いします。

講習会終了後は別館内の温泉で冷え切った体を温め、夕食には豪華な成吉思汗で一同乾杯、各自の自己紹介では、それぞれ感想や今後の抱負など、楽しいエピソードを交えての話で一層盛り上がり、お酒も進んで楽しい交流となりました



伊オヌプリを目指す



埋没者捜索訓練の様子

夜は部屋の暖房が少し暑くて寝苦しかったけれど、そこはお酒が入った事と、適度な疲れでぐっすり熟睡できました。午前6時半から朝食に横山泰子さんが作るスペシャル豚汁を食べ全員大満足。そのエネルギーを体に十分吸収させて、午前7時半に別館を各自の車で出発。チセヌプリのスキー場駐車場に15分程で着いた。前日に引き続きスキー班16名とスノーシュー班15名に別れ、本日のコース等の説明を受けた後、午前8時に両班共駐車場を出発する。

リニューアルされた雪秩父温泉施設の横を通り、沢沿いからチセヌプリ頂上を目指して進むと、風はあったが天気は良く、チセヌプリやニトヌプリのニセコの山々が美しく見え、二時間ほどで標高950m付近に到着した。ここから頂上までの急斜面はかなりクラストしていたので、スキーアイゼンが必要な事から、スキー班の東海林リーダーと他1名、横山リーダーのスノーシュー班全員が頂上まで登り、午後12時半頃には無事下山した。残りのスキー班はここから下り、時間も早かったため途中の良い斜面で登り返してパウダースノーを充分満喫した。

閉講式では各リーダーより、今回の成果と今後の方針等が報告され、一本締めで再会を誓い解散しました。

(報告 普及委員会 細木 輝雄)

## スタッフ

佐藤 眞 道岳連副会長 秋元 篤男 道岳連副会長  
普及委員 横山 温 東海林春樹 細木 輝雄 松下 陽子 加藤 陽子 横山 泰子

## 受講者感想

(札幌市 Yuri)

昨年12月に個人会員として入会。早速の冬山講習会の案内に張り切って参加を申し込みました。2月の基本編、3月の応用編を無事終えて満足感でいっぱいです。

1日目は「イワオヌプリ」へ。2月の講習で学んだビーコンチェックからの始まりです。山に入った後もショベルコンプレッションテストを行い、ひとつひとつの確認作業が、冬山での安全を再認識する事ができました。頂上を目指し歩き始めましたが、強風と舞い始めた雪に視界不良となり下山を余儀なくされました。この決断も、冬山ではとても大切な行動だと知ることができました。

宿泊先の五色温泉自炊棟へ移動して、座学とビーコン捜索講習です。座学テーマは、ロビンア山岳会松下さんより「低体温症について」でした。山だけではなく日常の生活ではもちろん、季節に関係なく起こることだと知ることができました。自分の基礎体力やその日の体調はもちろん、その先に起こり得る体温の変化を意識すること、身に着ける衣服での調整と摂取する食物での調整について考えさせられました。

佐藤 眞さんよりビーコン捜索講習は、ビーコンを身につけて冬山に入ることの重要性を聞き、屋外での捜索を実践しました。用意していただいた人型の「秀ちゃん」をビーコンを駆使しての捜索です。使い慣れていない私は7分もかかってしまい「不合格！！」と言われてしまいました(笑)。雪崩に遭わずに山を楽しめることが大前提ですが、もしもがあった場合、迅速に対応できる知識や行動が必要なのだと思いました。

2日目は「チセヌプリ」へ。昨日より風は強くなかったのですが、気温の低さを感じながら出発準備です。休憩時にはニセコ mountain 町を見下ろす眺望を楽しみながら「冬山では素手にならない」「ペットボトルを逆さにすると飲み口が凍らず飲める」など、冬山でのワンポイントアドバイスを受けました。

何度も強風にあおられながらも頂上に立つことができましたが、あまりの風に頂上を楽しめるはずもなく、標識での写真撮影を慌ただしく終え、すぐに下山開始です。スノーシューのまま下山しましたが、頂上直下は少しの恐怖を感じました。斜面でのスノーシューを外す場所を雪を削って確保していただき、キックステップをして無事に下山することができました。

3月の冬山講習会では、バスの送迎なしと聞き参加が難しいかと思われましたが、横山委員長から参加メンバーの相乗りの手配をしていただき、参加することができました。冬山の楽しさも怖さも知ることができ、段取りよく準備することも身についた気がします。

山の大先輩である山男&山女に囲まれ、その懐の深さと優しさに始まったばかりの私には居心地の良い場所を見つけた感じがしています。人生も先輩である皆様の年齢の重ね方にも素晴らしさを感じました。講習会開催にあたりいろいろな準備をしてくださったスタッフの皆様、本当にありがとうございました。



チセヌプリ頂上



## 第 71 会国民体育大会 (岩手国体) 山岳競技 追加報告

代表選手団一覧、競技結果については前号 (道岳連だより 79号) に掲載)



### ☆岩手国体報告 … 成年男子監督 橋村 昭男

今年の北海道成年男子チームは、古豪と新鋭の二人(古坂賢太、松浦 凌)の組み合わせとなった。国体は二人の個人成績でチームの成績が計算され、チーム成績で順位が争われる。従って二人とも上位に行く力を持っていなければ、チームとしても上位に行くのは難しい。そんな観点から見て今年の北海道チームはボルダリング、リード競技とも入賞を狙える力を持っていると言える。

#### 【ボルダリング競技】

成年男子チームは全都道府県から参加するので47チームとなる。北海道チームの出場順は37番目で、アイソレーション(控室)に入ってから3時間以上も待たされる順番であった。緊張感を上手に維持するというメンタル面の管理も重要になる。そのせいではないが、結果的に凡ミスが重なり26位という不本意な結果となり、悔いの残るものであった。

また、本国体の前にパリで行われた世界選手権で日本選手が優勝するということもあり、世界で活躍する選手たちが本国体に出場するという状況で、質、難易度とも従来とは異なる課題となった。

#### 【リード競技】

ボルダリング競技同様、リード競技も日本人選手がワールドカップや世界選手権で活躍していて、ルート課題は予選から高いレベルの設定となった。こんな状況の中で北海道選手は健闘したが、僅かに入賞に届かなかった。

北海道のレベルを全国と比べたとき、その差は力の差よりも世界レベルの課題の経験の有無と思う。対策としては、ワールドカップの出場選手を招いた講習会を開くとか、世界レベルの課題を設定できる施設を作る等が必要だろう。

### ☆岩手国体を振り返る … 成年女子監督 一安 敏文

岩手国体成年女子は、萩原亜咲、小武芽生のペアで久しぶりの成年女子優勝を目指して望む予定だったが、9月14～18日の日程で行われた世界選手権の直前合宿練習の最中に、小武選手が膝の靭帯を損傷するアクシデントに見舞われてしまい、世界選手権、国体ともに欠場するという残念な状況になってしまった。急遽補欠である一安瑛子選手に交代となり、約1ヶ月間の急仕上げのトレーニングを行ったものの、やはり戦力低下は否めず、リード、ボルダリングともに決勝進出は難

しいとの予想での出発であった。

10月7日競技第1日目は快晴の天気の中、岩手県営運動公園で行われた。初日の競技はボルダリング予選で、競技順は18チーム中最後となる18番目。今年の成年女子は参加選手のレベルが高く、予選から苦戦が予想されたが、結果的に萩原選手が2完登、一安選手が1完登と健闘してギリギリではあるが8位で決勝進出を果たすことができた。

10月8日競技第2日目は、昨日と打って変わって朝から雨が降っていた。成年女子はリード予選からスタート。朝からの天気ですリードウォールのコンディションが心配されたが、大会関係者のご尽力により、特に競技には問題はなさそうであった。北海道チームは18チーム中4番目のスタートとなり、一安選手は中間部を少し超えた辺りでフォール。萩原選手はゴールまであと2、3メートルといったあたりで惜しくもフォールだった。両選手ともボルダリングの方が得意ということで、リード競技は苦戦を予想されたが、結果的に9位と非常に惜しい成績で、あと一步で決勝進出だっただけに悔やまれる結果となった。

気を取り直して午後からはボルダリングの決勝競技が行われた。北海道は予選8位ということで1番目のスタート。決勝の課題は予選とは明らかにグレードを上げてきており、非常に難易度の高い内容となっていた。決勝の成績は両選手合わせても0完登1ボーナスという成績だったが、ボーナスすら取れなかった県もあって、結果的には一つ順位を上げて7位という成績で終了した。

ここ数年、レベルの高かった少年女子の選手たちが成年の年齢に上がってきていたり、ベテランの日本代表クラスの選手が国体へ参加してきたりと、成年女子は非常にレベルの高い大会であったと言えるだろう。以前までは各県のトップの選手と2番手の選手に差があり、トップの選手のレベルが劣っていても、2番手の選手が頑張れば逆転も可能だったのだが、今年は決勝上位の県は両選手ともに日本代表クラスの選手を揃えており、真の実力を試されるようになった。来年の愛媛国体では是非とも叶わなかった萩原、小武ペアで国体に出場して良い成績を収められるよう頑張りたいと願っています。

#### ★大会を振り返って … 少年男子監督 石井 昭彦

少年男子1日目は、リード競技の予選と決勝である。北海道の競技順は19番目であったが、奇しくも成績も19位であった。試合内容は、関根溪人、亀田翔太郎の2名とも同高度23+でフォール、身体のバランスを維持できずの結果であった。同高度でフォールしている選手が他に5名いたので、1つ目の核心だったと思う。

2日目のボルダリング競技予選は、競技順10番目であった。関根が2課題目の走って飛びつくスタイルは得意系ですと言って、2トライ目でボーナス(以下「B」という)2を保持し、完登かと期待するが次の一手が止まらず、これまで。ボルダリングも関根、亀田とも同じような成績だった。1課題目：関根1トライ目でB2、2課題目：関根、亀田とも2トライ目でB2、3課題目：亀田1トライ目でB2、4課題目：関根、亀田とも1トライ目でB2、チーム順位19位だった。

今年の少年男子は、エースがいないチームだったが、二人とも課題を楽しんで試合をしていたので、良かったと思う。

#### ★我らかく戦えり … 少年女子監督 長井 洋子

##### 【今大会を振り返って】

リード競技は競技順1番目という緊張があったのか、北谷選手が下部での予想外のフォール。初出場の上原子選手は安定して上部課題に入るものの、両手マッチから次の手が出せずにフォール。結果、下から3番目という予選順位となった。

ボルダリング競技に関しては、日本代表選手が苦戦した予選課題を、初出場の上原子選手は最初のトライでボーナス点を取るが、完登数及ばず決勝進出ならなかった。しかし、今後の強化練習で全国に通用する可能性が見えてきました。

### 【今大会に向けての強化対策について】

9月に道外合宿を実施。北海道選手はボルダリング中心の選手が多いため、昨年同様リード競技を丸一日練習する日程が組まれた。しかし、今大会は成年、少年ともリード競技は決勝進出してないことから、今後の強化練習について考え直すところは多いと思います。

### 【今後の対策について】

オリンピック競技になったことで、クライミングに興味を持つ人たちが増えて、全国的に競技人口が増加してきています。例年の課題である即戦力になる選手の発掘や現役選手の強化など、今後強化事業は問題が山積みだと思えます。

美唄市では従来のリード壁の他に、国体施設並みの本格的なボルダリング壁が完成し、多くの利用者に競技スポーツとしてのクライミングを体験してもらえる環境となりました。美唄市ではリード、ボルダリング強化練習が一度にできるので今後は楽しみです。

また、道外合宿を今後も継続し、さらに予算付けをしてワールド選手やその選手をコーチしている方などを迎えての強化練習が実現すると、選手にとっても練習に一層力が入るでしょう。

## 日山協競技部ブロック研修会

2/18-19 札幌市生涯学習センター「ちえりあ」

スポーツクライミング競技の円滑・公正な競技運営、普及を図り、クライミング審判員及び指導者の養成並びに国民体育大会山岳競技運営員の養成、認定、研修等を目的とし、平成28度の日山協競技部ブロック研修会は、2月18-19日札幌市生涯学習センター「ちえりあ」を会場に17名が参加して開催された。

研修カリキュラムの日山協公認クライミングC級審判員認定研修(10.5時間)は、日山協競技部常任委員 佐藤 豊氏、運営研修(8時間)、競技運営員認定研修(5時間)は、岩手山岳協会副会長 小山勝稔氏が担当講師となり、それぞれ11名、6名が参加した。

各研修とも10名以上の参加が開催の目安ということであるが、近年、参加者が20名を超えたことがなく、日山協競技運営委員長了承のもと、次年度からは、運営研修とC級クライミング審判研修を交互に開催する予定としている。

## SC日本ユース選手権リード競技大会2017

4/15-16 千葉県印西市 松山下公園総合体育館

日本ユース選手権リード競技大会2017は、4月15-16日千葉県印西市松山下公園総合体育館で、男子109名、女子106名合計215名の選手が参加して開催された。北海道代表は、2月5日美唄市体育センターで行った選考会で選抜した男女6名。引率・監督は、畑野和宏(遠軽高校、北海道体育協会指定コーチ)。カテゴリー別の順位は以下のとおり。

宮内 嶺 (北海道遠軽高校3年)	男子 ユースA	35位/37人
坂本 大河 (札幌市立常盤中学校3年)	男子 ユースB	26位/38人
竹内 悠真 (立命館慶祥中学校3年)	男子 ユースB	29位/38人
北谷 未紗 (北海道遠軽高校3年)	女子 ユースA	15位/24人
上原子 瞳 (札幌静修高校1年)	女子 ユースB	28位/32人
井土 桜花 (札幌市立宮の森中学校1年)	女子 ユースC	3位/31人



## 今後の諸行事(予定)

### 夏山講習会 Part 1

期 日 平成 29 年 5 月 6 日(土)-7 日(日) 会 場 暑寒別岳・小平町ゆうゆう荘

### 道岳連総会・第 1 回理事会

期 日 平成 29 年 5 月 14 日(日) 会 場 札幌エルプラザ

### 夏期遭難対策研修会

期 日 平成 29 年 5 月 20 日(土)-21 日(日) 会 場 日高登山研修所と周辺

### 第 4 回ジュニア S C 奈良杯兼第 20 回 JOC ジュニアオリンピックカップ 大会北海道予選会

期 日 平成 29 年 5 月 28 日(日) 会 場 美唄市体育センター

### 登攀研修会

期 日 平成 29 年 6 月 3 日(土)-4 日(日) 会 場 小樽赤岩・おこばち山荘

### ボルダリング日本ユース選手権兼道外合宿

期 日 平成 29 年 5 月 19 日(日)-22 日 会 場 鳥取県倉吉市

### 夏山講習会 Part 2

期 日 平成 29 年 6 月 10 日(土)-11 日(日) 会 場 室蘭岳・チャラツナイ海岸・滝沢

### 安全登山シンポジウム

期 日 平成 29 年 6 月 20 日(火) 会 場 札幌エルプラザ

### 夏山講習会 Part 3

期 日 平成 29 年 7 月 15 日(土)-16 日(日) 会 場 雨竜沼湿原・南暑寒岳

### パワフルレディース登山研修会

期 日 平成 29 年 7 月 22 日(土)-23 日(日) 会 場 風不死岳～楓沢・樽前荘

### ジュニア登山教室

期 日 平成 29 年 8 月 5 日(土)-6 日(日) 会 場 旭岳・大雪青少年交流の家

### 第 72 回国民体育大会北海道予選会

期 日 平成 29 年 8 月 5 日(土)-6 日(日) 会 場 グラビティサーチ札幌・美唄市体育センター

### 美瑛富士避難小屋携帯トイレブース点検パトロール

期 日 平成 29 年 8 月 6 日(日) 会 場 美瑛富士避難小屋

### 沢・登攀研修会

期 日 平成 29 年 8 月 19 日(土)-20 日(日) 会 場 白老川支流の沢・登別ふおれすと鉱山

### 高所登山講習会

期 日 平成 29 年 8 月 24 日(木)-27 日(日) 会 場 富士山

### 第 31 回北海道山岳連盟交流登山会

期 日 平成 29 年 8 月 26 日(土)-27 日(日) 会 場 富良野西岳・富良野スキー場

(開催要項等詳細は、道岳連HP各委員会のページ参照)

# 第31回北海道山岳連盟交流登山会(仮案)

平成29年8月26日(土)～27日(日) 富良野西岳・富良野スキー場

主催 北海道山岳連盟 主管 富良野山岳会

会場 開会式・交流会場 富良野スキー場「北の峰ターミナル2階」

宿泊 富良野スキー場「北の峰第1高速リフト」乗り場付近

コース A；富良野西岳 尾根コース（登り2:30 下り2:00）

北の峰 Gondola 利用～山頂駅(940m)～富良野西岳(1331m)頂上

～富良野ロープウェイ山頂駅(ロープウェイ利用)～富良野ロープウェイ山麓駅下山

B；富良野西岳 尾根コース→頂上→四線川コース（登り2:30 下り3:00）

北の峰 Gondola 利用～山頂駅(940m)～富良野西岳(1331m)頂上～四線川

～富良野ロープウェイ山麓駅下山

C；四線川コース→頂上→富良野ロープウェイ山頂駅（登り4:30 下り2:00）

富良野ロープウェイ山麓駅～四線川コース～富良野西岳(1331m)頂上

～富良野ロープウェイ山頂駅(ロープウェイ利用)～富良野ロープウェイ山麓駅下山

日程 《26日》

13:00-15:00 受付、テント設営

15:00 開会式

16:00 全体交流会

18:00 自由交流

21:00 就寝

《27日》

登山行動

(各コース登山開始最終時間)

Aコース 8:00 Bコース 7:00

Cコース 7:00

※北の峰 Gondola 始発時間 6:00

(閉会式 15:00 富良野ロープウェイ山麓駅)

参加料 3,000円～3,500円(予定) ※ロープウェイ・Gondola 料金は各自負担

その他 芦別岳、富良野岳の登山は、参加団体・参加者各自で行動。登山計画書の本部提出と電話での下山報告を願う。下山報告後は現地解散とする。

申込み等詳細は、5月14日の道岳連定期総会で「実施要項」配布



道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.80

平成29年5月1日発行

発行 北海道山岳連盟

事務所 札幌市豊平区月寒西3条10丁目2-48

発行責任者 小野 倫夫

編集担当(総務) 内藤 美佐雄